

特定分野の功績

副賞／日本財団賞（賞金50万円）

海の貢献賞

- 海の安全確保、環境保護、汚染防止等に尽くされた功績
- 海に関わる産業分野において
 - 傑出した技能による同分野への貢献と技能の伝承に尽くされた功績
 - 優れた発明・考案・改良等により同分野の発展に尽くされた功績
- 海に関わる文化の発展・保存・伝承等に貢献された功績



和白干潟を守る会

124



特定非営利活動法人
南の島々(ふるさと)・
守り隊

126



金城 浩二

128



大門 清春

130



中尾 福良

132



代表 山本 廣子

わじろ ひ がた まも かい 和白干潟を守る会

(福岡県福岡市東区)

昭和63年に結成された会で、福岡県の博多湾東奥部にある和白干潟の保全活動を続けて22年になる。和白海域の水鳥の調査や自然観察会の開催、干潟のクリーン作戦、同海域の水質調査や一般市民を対象とした和白干潟まつりの開催など和白干潟に根をおろした環境保全活動をされている。平成21年は年12回開催のクリーン作戦に延べ304名、年10回開催の自然保護観察会に延べ458名が参加している。

●推薦者／和白干潟を守る会

博多湾東奥部にある和白海域（約300ha）と和白干潟（約80ha）は大都市の近くにありながら野性生物が豊富に生息し、東アジアの水鳥の渡りルートの交差点に当たる国際的に重要な湿地です。

和白干潟はこの水鳥たちの越冬地や中継地となっており、1980年以降237種もの野鳥が記録されています。1978年に福岡市の博多港港湾計画で和白干潟を含む博多湾東部海域の全面埋立計画が発表されました。生まれ育った和白干潟が埋め立てられることが残念で、1987年に「和白干潟保全の請願書」を300名の署名を添えて、福岡市議会に提出しました。1988年に地元の人々に呼びかけて「博多湾・和白干潟の豊かな自然を破壊から守り、未来の子ども達に伝える」ことを目的に「和白干潟を守る会」を結成し、干潟の保全活動を始めました。現在会員数は全国に約300名です。この活動の影響もあり福岡市は和白干潟の埋め立て中止を決定しましたが、今度は、和白干潟の前面に401haもの人工島計画ができ、1994年に着工されました。博多湾や和白干潟の環境悪化が心配されています。

1988年12月に手書きの「和白干潟通信 愛して、わじろ」を発行することにして、公民館の印刷機を借りて刷りました。それを会員が分担して、和白干潟の周りの地区に配布しました。

1989年には「和白干潟まつり」を手探りで開催。

1990年にはクリーン作戦や水質調査を開始。

1991年には水鳥調査を開始。1997年には和白干潟の環境教育プログラムを作成し、このプログラムによる自然観察会を開始。2009年からは砂質調査を開始。いずれの活動も開始以降、毎

The Save Wajiro Tidal Flat Association(Higashi-ku, Fukuoka, Fukuoka Prefecture)

This group was established in 1988 and for the past 22 years has continued its conservation activities for the Wajiro tidal flat located at the eastern end of Hakata Bay. The group devotes its time to environmental conservation activities centered on the Wajiro tidal flat and surveying of water birds in Wajiro waters, cleaning the tidal flat, testing water quality, and holding the Wajiro Tidal Flat Festival for the general public. In 2009 the group held 12 cleaning operations involving 304 people and 10 nature protection observation events during the year with a total of 458 participants.

Recommended by the Save Wajiro Tidal Flat Association

年継続しています。現在も定例会議で皆で話し合いながら決めていく活動スタイルを続けています。1990年頃から国内外の団体との連携が進み、運動が急速に大きくなっていったように思います。韓国や香港の干潟の調査や交流にも行きました。

2003年には環境省などへの働きかけが実り、和白海域が「国指定和白干潟鳥獣保護区」に指定され、2004年には和白干潟がラムサール条約登録湿地の候補地に選ばれました。また、2009年には「日本の里100選」にも選ばれました。今後も和白干潟がラムサール条約登録湿地となり保全されるよう願って、保全活動を続けます。若い方々の参加を待っています。

活動風景



■ クリーン作戦



■ クリーン作戦



■ 自然観察会



■ 鳥類調査



■ 和白干潟まつり



■ 自然観察会



理事長 浦崎 金雄

とくてい ひ えいり かつどうほうじんみなみ ふるさと まも たい
特定非営利活動法人南の島々・守り隊
 (沖縄県八重山郡竹富町)

沖縄県の竹富町の鳩間島で、漂着ゴミを憂いていた代表者を中心に平成20年に結成されたNPO法人で、海岸に漂着した発砲スチロールを油化プラント装置にかけ、ディーゼルエンジンやボイラーの燃料として使用できるスチレン油を抽出し海岸の美化と省エネ効果を高める活動をされている。

●推薦者／社団法人 日本海難防止協会

有人島で日本最南端の波照間島を有する竹富町は西表島を含め、多くの離島を抱えている。その竹富町の最北の島が我々の活動拠点、鳩間島である。

竹富町には豊かな手付かずの自然が多く残っており、とりわけ西表島は東洋のガラパゴスとも言われ、亜熱帯原生林や、独自の進化を遂げた多様な生態系が今も残され、世界的に見ても極めて貴重であることは、国内のみならず、海外の専門家もこぞって指摘をするところである。

この優れた自然環境の保全について、町はこれまで、西表島の陸域・海域を世界自然遺産に登録しようと取り組んできた経緯があり、現在も続いている。この、貴重な自然を未来へ継承していくためには、今のうちに、様々な角度から必要な検討項目を洗い出し、住民生活と自然とが共生できる条件整備を行う等、持続可能な対策を講じておく必要があるとの思いで、平成19年、NPOの設立準備委員会を立ち上げ、平成20年11月、南の島々（ふるさと）守り隊を設立した。

沖縄観光の大きな魅力は、その美しい海であり、白く輝く海浜であろう。だが、近年海岸漂流ゴミが大量に押し寄せ、美観を損ねるばかりか、生態系まで破壊することなど、その対応に苦慮しているところである。漂着ゴミの約40%は発砲スチロールであり、その他にもプラスチック類、ペットボトル、漁網・浮き球・ロープ、流木等様々である。当NPOでは、この厄介者の発砲スチロールを油化し、スチレン油を抽出して、エネルギーとして利用出来るプラントを、日本海難防止協会をはじめ、日本財団、サンライフ社など多くの関係機関の尽力で平成21年に完成させ、現在西表島・竹富島の漂着発砲スチロールの一部を処理している。また、ボイラーの燃料としても利用しており、今後、船舶や焼却炉燃料としての使用も視野に入れ、有効な利活用について検討をしているところである。更に鳩間小中学校が行っている海岸漂着ゴミ

NPO Minamino Furusato Mamori Tai (Taketomi-cho, Yaeyama-gun, Okinawa)

This NPO was established in 2009 by a representative of the group who was concerned about rubbish being washed up on Hatoma Island in Taketomi-cho in Okinawa Prefecture. The group collects styrofoam rubbish washed up on the beach and processes it in petrochemical plant equipment to extract styrene oil that can be used as fuel for diesel engines and boilers. These activities help in the beautifying of beaches and in increasing energy-saving effects.

Recommended by The Japan Association of Marine Safety

の回収作業にも積極的に関わり、漂着ゴミの実態や、油化プラントで実際にスチレンの抽出作業を行い、その内容についての説明や、スチレン油を利用したボイラー使用について細かく説明を行うなど、児童生徒へ環境問題について提言を行っている。

今般、国が漂着物の処理について法制化し、漂着ゴミの処理費用や啓発活動に際し、国の財政支援策が示されているが、それでも海岸線を有する自治体は、膨大な漂着ゴミの処理に頭を痛めているのが厳しい現実であり、喫緊の課題だと認識している。

今後、スチレンを活用した離島での新たな事業展開や、海岸の美化及び省エネ対策、さらには離島振興につながる社会貢献を目指すNPOでありたいと意を強くしているところである。

今回、身に余る過大な評価をいただき、このような荣誉ある表彰に浴し、衷心より厚く感謝を申し上げます。

美しい海・眩しい白い砂浜を残すため、かけがえのない自然を残すため、小さな一歩、しかし確実な一歩に努めていきたいと思っております。

公益財団法人 社会貢献支援財団の限りないご発展をお祈り申し上げます。

この度は誠にありがとうございました。



関係者との打合せ風景



子供たちに課外授業



発砲スチロール回収





きんじょう こうじ
金城 浩二

(40歳／沖縄県読谷村)

沖縄県で、白色化した珊瑚の無残な姿をみて、順調に経営していた店を譲渡し、平成10年から珊瑚の養殖を始めた。珊瑚の養殖は容易ではなく、借金を抱え苦勞しながらも研究を重ね、同17年に素人でありながら養殖して移植放流した珊瑚からの産卵を成功させ、珊瑚礁の再生と海に対する理解を深めるための啓蒙活動を続けられている。

●推薦者／田中 律子

私は、ちょうど沖縄が日本に復帰した頃に、この沖縄で生まれ、育ちました。

沖縄という島には、自然に対する信仰的な風習が古くから伝わっています。

私の母も、私が海や山で遊んでいると、いつも「海に感謝なさい」、「山に感謝なさい」と私に教えてくれましたし、海や山といった自然を尊び敬うということが当然のことだと思っていました。しかし、私が尊び敬っていた場所は、時代の流れと共にどんどん無くなっていくのを肌で感じながら私は成長してきました。

そして年月は流れ、そんな私も大人になり、自営業を営みながらごく普通に生活していたとき、あのサンゴの大規模な白化現象を目の当たりにしたのです。それは、当たり前にあったものが消えていくというさまであり、まさに恐怖でした。そして消えていったものが当たり前忘れられていくという事に怖さを感じました。

「サンゴ礁をなくしちゃいけないし、豊かな海を忘れちゃいけない。」という想いが私の中で大きくなり、サンゴを増やし、海に植える仕組みを作ろうという想いにいたりしました。

いざ、始めてみると、想いと現実のギャップにびっくりしました。

生態系を育むはずのサンゴ礁を、「資源」と考える人はあまりにも少なく、それを守り育てるという発想に共感してくれる人は、ほとんどいませんでした。

その当時は、最近のようにエコロジーという考え方も無く、まさに利益優先の発展を考えているかのような印象で、そんな中での普及活動は、一人一人に伝え歩くというような極めて地道な作業となりました。

Koji Kinjo (Age 40/ Okinawa Prefecture)

After witnessing the dreadful state of the bleached coral in the Yomitan village in Okinawa Prefecture, Mr. Kinjo transferred his shop, which had been prospering, and started cultivating coral. Cultivating coral is not an easy task and Mr. Kinjo continued his research on cultivation while struggling with mounting debts. In 2007, despite his lack of professional know-how, he succeeded in spawning a root clump from transplanted coral, and cultivated and transplanted it. Mr. Kinjo is continuing his efforts to deepen people's understanding of the rehabilitation of coral reefs and the ocean.

また、サンゴの養殖や植え付け作業というものには具体的な前例が無く、技術面においても一つ一つ考え、自らの手で作り上げるしかありませんでした。

更に、サンゴを「保護動物」として扱うルールは、養殖という新しい考え方に対応する事が難しく、その数十年前に作られたルールのために、養殖用の種親すら手に入れる事が困難でした。

最近ようやく、養殖用の種親の採取ということが可能となってきたのですが、許可を発行する側に適切な判断基準がないため、1種類の採捕許可に1年はかかってしまうのが現状です。

それは、サンゴ礁が減りゆくさまを、だだ指をくわえて見ていることしかできないルールだと、私は思うのです。

最近では、サンゴを植えるという事に理解を示す漁業者や、企業がたくさん増えてきました。それでも、いまだ採捕許可という特別なルールがあるために、赤土を被り死んでいくサンゴを別の場所に移そうと思っても、それも違法行為となります。

また、サンゴは過密に成長する場所から間引きをして増やす事も十分可能なのですが、それもいまだ、法律では認められていません。

再生をしなければいけない時代に、このルールは合っていないのかも知れません。このように、行政側もいまだこの現状に追いついてはいないのです。

これから私の役割は、これまでよりももっと多くの人にサンゴの性質や現状を知ってもらいながら、サンゴ礁の価値を伝えることであり、私はそのための活動をずっと続けていきます。多くの人がサンゴ礁に価値を持つ事ができたら、他人事から自分ごとへと意識が変わるはずですよ。

そしてその波は、サンゴ礁再生に向けての新たなルールがうまれることや、再生活動が盛んになっていくことへとつながっていくでしょう。

そうしてはじめて、サンゴ礁が後世に残せるようになるのだと思いますし、きっとそうなる事を強く願っています。



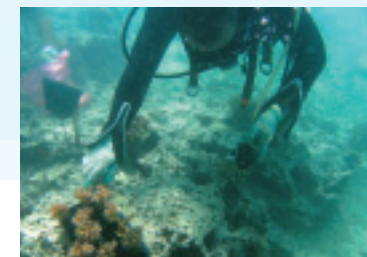
■ カゴで保護されたサンゴ



■ 移植から1年後の風景



■ 2009年サンゴの産卵



■ 海中作業風景



だいもん きよ はる
大門 清春

(59歳/広島県広島市安芸区)

昭和45年に海外から原油タンカーが積んで来た原油を陸上のタンクへ移しかえる際の荷役装置のポンプとタービンの専門メーカーである(株)シンコー(広島市)に入社。原油荷役装置のケーシング部品の加工に高い技術を発揮し、加工システムを確立し加工時間に著しい成果をあげ、製品の生産の大きな礎となるなど造船業界の発展に尽くされている。

●推薦者/社団法人 日本船用工業会 会長 赤坂 全七

この度は栄えある、社会貢献者として表彰して頂き、厚く御礼申し上げます。

受賞の推薦をして頂いた関係者の皆様方には、感謝の気持ちで一杯です。今後も、この受賞に恥じないように、技術技能の向上の励み、機械加工の改善を進め、優れた船用ポンプの製造に邁進して貢献したいと思います。

私は1970年に(株)新興金属工業所(現、(株)シンコー)に入社、そして機械加工の職場に配属となり、主にポンプケーシングの加工に携わってきました。

1984年に船舶の機関室に搭載される、多種類のポンプケーシング生産のため、多品種少量生産に適し、24時間稼働可能なシステムFMS(Flexible Manufacturing System)を導入、その際私はシステム担当者の一員に指名されました。当時は素材に芯出し用ケガキ作業を行い、段取り、機械加工という工程でしたが、FMSでは以前の加工方法と違い、素材に加工用芯出し作業を行わないで、段取り及び機械加工します。そのため芯出し無しの素材を直接加工用治具に取り付けるため、治具が安定したものでないといけなかったので、治具造りには大変苦勞しました。まずケガキ線無しの状態の素材を、常に一定の位置にセットできる事が可能な物。次に機械加工中ビビリ(スムーズに加工できない状態)が発生しないように加工できる事。これが重要でビビリが発生すると、端面、内径、外径、寸法が決まらないのです(寸法 公差0.01~0.02)。

当初このビビリが発生するため、試行錯誤して治具の補強、段取り方法及び加工用バーの大きさ長さ、バイトの変更修正を行い、これらの問題をクリアしました。

加工用プログラム作成では、テスト加工を幾度も繰り返し行い完成させました。吊具におい

Kiyoharu Daimon (Age 59/ Aki-ku, Hiroshima, Hiroshima Prefecture)

In 1970, Mr. Daimon joined Shinko Inc. Ltd. in Hiroshima City, a company that specializes in the manufacture of pumps and turbines for cargo oil unloading equipment when transferring crude oil from tankers to on-shore storage tanks. Mr. Daimon demonstrated superior expertise in the processing of casing parts for the unloading equipment of crude oil. He also made important contributions to the development of the shipbuilding industry by establishing a processing system, making significant headway in reducing processing time, and developing an important platform for the manufacture of products.

Recommended by Mr. Zenshichi Akasaka, Chairman, Japan Marine Equipment Association

ては、安全かつ簡単に素材をセットできる事を条件に考案しました。

この様な問題をクリアして、段取り時間を短縮(例:30分/台を15分/台)でセットでき、以前の半分の時間で完了。

加工時間においては、多工程で加工していたので、例えば20H/台が3H/台で完成。この様に、FMSで無人加工を可能にした事により、飛躍的な時間短縮ができました。五面加工機では、本体、カバーを分けて加工する方法で無人加工を可能にしました。結果、例えば、4日/台が、1日/台で完成、大幅な加工時間の短縮となり、生産に貢献できました。

加工用治具、吊具及び加工プログラムの作成は、上司の方をはじめ、生産技術部、先輩諸氏の指導、同僚の協力により完成することが出来ました。

今日では、当時苦勞したお陰で治具作成も順調に行われています。今後は加工、段取り方法、治具の作成等、後輩に技術を伝承しつつ共に技術、技能の向上を目指し努力して、優れた船用ポンプの製品造りに貢献したいと思います。



作業見回り中の大門さん



工場内の作業風景





なか お ふくよし
中尾 福良

(79歳/広島県福山市)

昭和24年に広島県の内海町の船大工に弟子入りして以来、和船造りを今日に受け継ぐ船大工として、打瀬船やコギ船と呼ばれる漁船や遊覧船を製造。現在も現役で和船の修理を依頼先に出向いて行なうなど60年以上にわたり和船の技術の伝承のために尽くされている。

●推薦者/福山市教育委員会 教育長 高橋 和男

この度の栄えある社会貢献者表彰を頂くことができたのも、私を支えて下さった方々、推薦して下さいました皆様方のおかげだと心から喜び感謝申し上げます。

私が船造りの弟子入りをした時は、戦後昭和二十一年の春でした。父は戦地から四年後に帰還、その時の私は、弟子入り四年目の十八歳の若者でした。

船造りのチャンスが訪れたのは私が二十四歳でした、当時、島には二十五軒もの造船所があり、私もその1社に入りましたが、仕事は途切れがちでした。漁船の大きさは、船体は5t、エンジンは十五馬力と決まっていました。木を何本も削っては、夜風呂の中で押して、スピードのテストをするなど色々と研究している時、結婚と時を同じくしたころ、私の師匠が「俺も年をとったのでお前の所で働かせてくれ」と言われ、私には師匠と一緒に働けることは、大変に心強いことでした。

それから半年後、妻の兄から「新造船を造る、今までお前が研究した事、考えている事を私の船に反映させてほしい。」と言われ、私はその言葉通り、色々これまでの経験から培ったことを活かすべく、とも（船尾）を丸くして波風の抵抗を無くそうとすると、父はそれには費用がかさむからと反対でした。しかし、師匠は「今お金がかかっても、二年先三年先には今の何倍にもなって帰るから、良いと思うのならやれ。」と言われ、その言葉通り、自分の意見を反映させた船を作り、進水させました。

山口県宇部市に帰るとこれが大好評で、仕事もやりやすく、大分県や福岡県からも注文が殺到するようになり、昭和四十年頃からは、4人で毎年十隻の進水が二～三年続き、これまでに作った船は約三百隻を超えました。

平成に入り木造船も少なくなったころ、広島県の帝釈峡遊覧船四隻を造らせて頂きました。

Fukuyoshi Nakao (Age 79/ Fukuyama, Hiroshima Prefecture)

Since joining a shipwright as an apprentice in Utsumi-cho in Hiroshima Prefecture in 1949, Mr. Nakao as a shipbuilder has been keeping alive the skills and techniques of building traditional Japanese-style boats. During his career, he has been building fishing boats known as utasebune and kogibune as well as other pleasure craft. Still active in his profession, he even repairs these Japanese-style boats on site upon request, thus continuing his efforts of over 60 years to pass on the skills of building traditional Japanese-style boats.

Recommended by Mr. Kazuo Takahashi, Superintendent of Schools,

Fukuyama City Education Board
Recommended by Mr. Kazuo Takahashi

定員八十人乗り三隻、百二十人乗一隻が稼働しています。

今は、木造船の修理、また無くなりつつある色々な模型作木造船、プラスチック船修理の毎日です。

色々研究し、苦勞をし、気が付けば二十五軒あった造船所も、今では私の所とあと1軒になり、今まで手掛け木造和船の模型にも力を入れています。

■木造船の作業風景



■模型の木造船



都道府県別受賞者内訳

県名	平成21年度までの累計	平成22年度の受賞者	受賞者数
北海道	635	2	637
青森県	175		175
岩手県	186		186
宮城県	308		308
秋田県	123		123
山形県	151		151
福島県	165	1	166
茨城県	192		192
栃木県	142		142
群馬県	238	1	239
埼玉県	451		451
千葉県	387	3	390
東京都	1094	11	1105
神奈川県	603	1	604
新潟県	250	2	252
富山県	143		143
石川県	141	2	143
福井県	201	1	202
山梨県	131	1	132
長野県	195		195
岐阜県	210		210
静岡県	303	2	305
愛知県	293	2	295
三重県	162		162
滋賀県	95		95
京都府	192	1	193
大阪府	468	1	469
兵庫県	497	1	498
奈良県	111		111
和歌山県	141	1	142
鳥取県	90		90
島根県	110	1	111
岡山県	303		303
広島県	402	2	404
山口県	270	1	271
徳島県	172	1	173
香川県	191	1	192
愛媛県	150		150
高知県	70		70
福岡県	527	2	529
佐賀県	115	1	116
長崎県	265		265
熊本県	224		224
大分県	119		119
宮崎県	69	1	70
鹿児島県	138		138
沖縄県	150	3	153
その他	66	4	70
合計	11814	50	11864

※受賞者数は、当財団設立の昭和46年からの都道府県別受賞者件数の累計。

※県名は、受賞者居住地の都道府県名。その他は、居住地が海外。

※受賞者数は、こども読書推進賞受賞者も含めて累計。

役員・評議員一覧

会長	日下 公人	日本財団 特別顧問
副会長	内館 牧子	脚本家
専務理事	天城 一	公益財団法人 社会貢献支援財団
理事	立石 信雄	オムロン株式会社 相談役
理事	新田 勇	元株式会社 東芝 社友
理事	平岩 弓枝	作家
理事	三谷 充	三谷産業株式会社 代表取締役会長
理事	屋山 太郎	政治評論家
理事	米長 邦雄	社団法人 日本将棋連盟 会長
監事	篠原 由宏	篠原法律会計事務所、弁護士
監事	竹内 清治	BOAT RACE振興会 元理事
評議員	石井 宏治	株式会社 石井鐵工所 取締役社長
評議員	尾島 俊雄	銀座尾島研究室 主宰
評議員	今 義男	海洋政策研究財団 理事長
評議員	さかもと 未明	漫画家、作家
評議員	重村 智計	早稲田大学 国際教養学部 教授
評議員	泊 懋	東映アニメーション株式会社 相談役
評議員	中島 健一郎	株式会社 シナプス・サポート 取締役会長
評議員	広渡 英治	財団法人 ブルーシー・アンド・グリーンランド財団 専務理事
評議員	藤原 正彦	お茶の水女子大学 名誉教授
評議員	三宅 久之	政治評論家

(平成23年2月1日現在)